

本興寺だより

令和六年 一月
第二五三号

「春の初めの御悦び、木に花の咲くがごとく、山に草の生い出ずるがごとし、と我も人も悦び入って候」

(宗祖 春初御消息)

謹んで新年のお悦びを申し上げます。
旧年の思い出には、人それぞれに感慨深いものがあると思います。砂漠でオアシスに出会ったような、ホッとしてくれるわずかな安らぎや楽しみがあれば、足に重しを付けて何時も歩いているような、絶えず心から離れない心配や悩みを引きずって生きることもありません。

年の初めには、昨年を振り返って、善き出合いや哀しい別れや、心のわだかまりがあっても、心をリセットして、新たな気持ちでスタートすることが大事です。

日蓮聖人は、「正月は妙の一字の祭り」とも云われています。「妙」とは、蘇生の義であると。蘇生とはよみがえること。人が再び生命を取り戻すこととす。

仕事や人間関係、体調、願望など、満たされないことが山ほどあると感じる私達ですが、知らず知らずのうちに心が疲弊して、汚れが溜まっていることの重大さに、人は気づいていないと仏様は云われます。



命の本質が丸い以上、どんな時でも心も丸く保つことが、その命が一番輝くことにつながるのだということだ。

厳しい寒い冬の後には必ず暖かい春が訪れます。季節が自然に巡るように、心に四季が生じた時も、心を切り替え、良き方へめぐらしていくことが大事なのです。「雪が溶けたら何になる？」と問われれば、自然

界では「水になる」が正解ですが、心の世界では「春になる」が必要です。

人は理不尽と思われることや、心に刺さった辛いことは忘れがたく、時として心が雪のように冷たく、また冷凍庫の氷のように、長く固まって溶けず、何時までもこたわり続けることがあります。仏様は、心が雪のように冷たく冬を感じる時であれば、なおさら春を迎える暖かい心を保つことが必要だと云われます。

現代の世の中は、心の病を持つ人や学校へ通えない子が増えています。社会の荒波や人間関係の中で、自分に対する自信を無くし、社会から距離を置き、自分の殻にとじこもるのです。

人間とは人の間と書きます。孤独では本来生きていけないのです。たくさん人の間に囲まれ、支え合って皆の力も自分の力も発揮されるのです。辛い時でも、氷のように閉じ込められている己の心を溶かし、何時か春を迎えられる希望と信念を忘れてはいけないと云われます。

法華経の常不軽菩薩品第二十に「私(仏様)はあなた方を深く敬い、決して軽蔑しない。何故なら全ての人は菩薩としての修行を行うことにより、いずれ悟りを得た仏となるからである」と説かれています。

常不軽菩薩という方は、会う人ごとにひたすら合掌し礼拝し、決して他人を軽んじることはなかった。常不軽菩薩は、悪意を抱かれ、非難され、罵りを受けても怒りの心を起こさず、相手に合掌をされました。凡人にはなかなかできないことです。嫌な人とは合



十二支の中で唯一架空の動物だと云われていますが、そうではなく、仏様は龍神は確実に存在する霊獣であると示されています。凡人には見えにくいだけなのだ。

「龍」神は、仏法を守護する八部衆の神。雷雲、竜巻を従えて天空を自在に飛翔します。

三碧・甲辰の象意は全てに振動の象意があります。雷が万物を震い動かして風を呼び、雨を降らし、天も

地も人も震える、大きな災害、震災の発生の予防に備えなくてはならない年であり、日頃から何事も冷静に行動することを心がける事が大事な年です。

本年も宜しく願ひ致します。

合掌

本興寺住職 中谷聰秀

大掃除をして身心共に身の回りの汚れを落とし、すがすがしい気持ちで新年を迎えることが大切だと云われます。

昔は正月が来るたびに皆が一斉に年を取る「数え年」でした。人々に一年を生き抜く生命力と幸運と新しい年令を与えてくれる年神様を招いて感謝し、祝う行事が正月でした。

正月飾りの代表である鏡餅は、神霊が宿るとされ、神社の神鏡をも形どり、神聖なものです。心臓『命の源』をも表します。森羅万象の全ての命は、その本質は丸く、全ての現象は、日(陽)と月(陰)の二つのもので成り立っていると仏様は云われています。

大宇宙のあらゆる天体は、その姿が球体です。人間の細胞も血液も生命の核は丸いのです。鏡餅が丸いのもそれを表しており、重ね餅にするのも、万象には全て陽と陰が生き方に至るまで働いていることを示しています。それは、悦びと悲しみ。楽しみと苦しみ。明るさと暗さなどです。

命の本質が丸い以上、どんな時でも心も丸く保つことが、その命が一番輝くことにつながるのだということだ。

常不軽菩薩が人間を礼拝する姿には、例え怒りや欲望に縛られている人でも、限りない慈愛の眼と、人への深い信頼が見られます。人は本来このように生きるべきということを示されたのです。

それはどんな悪業の深い人であっても、その心の奥にある尊い仏の心が見えたからこそ、その心に合掌し礼拝されたのです。

自分の幸せを願うには、好き嫌い、損得の情を超え、開わり合う全ての人々の幸せを共に願う生き方が、巡って自身の幸運をももたらすのだといわれます。

今年三碧木星・甲辰(きのえたつ)の年です。辰は龍です。